

2010年



圓環

10月号

通巻 563 号

発行所 生長の家ブラジル伝道本部 発行人 村上真理枝

せい ちょう いえ ぜん こく たい かい (日本語)

せい ちょう いえ せい ねん かい ぜん こく たい かい (ポ語)



Av. Eng^o Armando de Arruda Pereira, 1266 - São Paulo

Tel.: (011) 5014-2222 - Website: <http://www.sni.org.br> - E-mail: enkan@sni.org.br

「^{からだ} ^{きた} ^{こと} 体を鍛える事と、 ^{こころ} ^{みが} ^{こと} ^{ちが} 心を磨く事の違い」

^{せいちょう} ^{いえ} ^{きょうか} ^{そうちょう} ^{むかい} ^{よしお}
生長の家ラテン・アメリカ教化総長 向 芳夫



^{がっしょう}
合掌ありがとうございます

^{からだ} ^{きた} ^{こと} ^{きほん} ^{ほんとう} ^{しんてき} ^{ようそ} ^{おも}
体を鍛える事の基本も本当は心的要素が主
^{ひょうめん} ^{かんが} ^{とき} ^{からだ} ^ま ^{にく} ^{たい}
ですが、表面だけを考える時、体は先ず肉体
^{てきく} ^{れん} ^{はじめ} ^{なくては} ^{なりません}、いくら
^{いの} ^{きんにく} ^{じょうぶ} ^き ^{ほんてき}
祈っても筋肉が丈夫にはなりません、基本的
^{たいそう} ^{かよ} ^{てきとう} ^{しどう}
には体操をするとか、ジムに通い適当な指導
^{もと} ^く ^{かえ}
の基に、訓練を繰り返さなくてはなりません。

先ず一番簡単で誰でもが知っており、誰でも
^で ^き ^{うんどう} ^{ひと} ^{ある} ^{こと} ^{いっばん} ^し
もが出来る運動の一つに、歩く事が一般に知
^{ほうほう} ^{まいにち} ^{すく} ^{いちじ} ^{かん}
られている方法で、毎日少なくとも一時間く
^{ある} ^{こと} ^{けんこう} ^{もと} ^い
らい歩く事が健康の基とされています。

これは誰にも頼らず自分で少しの努力で実
^{こうで} ^き ^{みりょく} ^{ある} ^{こと}
行出来るところに魅力があります。歩く事に
^{からだ} ^{ぜんさい} ^{ぼう} ^{はたら} ^{てきとう}
よって体の全細胞が働き、適当にカロリーを
^{しょうもう} ^{いっせき} ^{にちよう} ^{ことば} ^{どお}
消耗してくれるから、一石二鳥という言葉通
^{ゆうこう} ^{いちにち} ^{うち} ^{じかん} ^{ゆる} ^{はんい}
りに有効です。一日の中、時間の許す範囲で
^{けいかく} ^{ある} ^{こと} ^{こころが}
計画して歩く事を心掛けましょう。

さて心を磨くためには何が必要でしょうか？
^{しんこう} ^{たか} ^{さと} ^り ^{ひら} ^{ぜんごう}
もちろん信仰を高め悟りを開いて善業を
^つ ^{おお} ^{ひと} ^{しゃかい} ^{ため}
積み、多くの人々のリーダーになって社会の為
^つ ^{こと} ^{たいせつ} ^{むずか}
に尽くす事が大切ではありますが、そんな難
^{はなし} ^う ^{とき} ^{すこ} ^{うつく}
しい話でなく、生まれた時より少しでも美し
^{こころ} ^よ ^さ ^{こと} ^{ひと} ^{たましい}
い心になって世を去る事でも、その人の魂は
^{みが}
磨かれたのではないのでしょうか。

^{なが} ^{うちゅう} ^{れきし} ^み ^{わたしたち} ^{いっしょう}
長い宇宙の歴史から見れば私達の一生は
^{いっしゆん} ^す ^{いっしゆん} ^み
一瞬に過ぎないものですが、その一瞬に満た
^{じんせい} ^{たいせつ} ^い ^{こと} ^い ^ぎ ^あ
ない人生を大切に生きる事に意義が有るので

はないのでしょうか。その信条の一つに「誰に
^ま ^ど ^り ^{よく} ^{よう} ^{する} ^も ^{くて} ^き ^む
も負けない努力をする」、要するに目的に向
^か ^つ ^{ぜんりよく} ^つ ^{ぜんりよく} ^だ ^き ^{とき}
かって全力を尽くす。全力を出し切る時、そ
^か ^み ^{さま} ^{あら} ^わ ^お ^し
こに神様が現れる、と教えられています。

^{けんきよ} ^{こころ} ^{こうふく} ^{まね} ^い ^{ひと}
謙虚な心が幸福を招くとも言われます。人
^{こと} ^ば ^み ^み ^か ^た ^む ^お ^し ^こ ^こ ^こ ^ろ ^{じん} ^{かく}
の言葉に耳を傾け、教えを乞う心がその人格
^{あら} ^わ ^{ひと} ^{そん} ^{けい} ^{もと}
を表し、人からも尊敬される元になります。

^{いち} ^に ^ち ^ふ ^か ^え ^じ ^{ぶん} ^{こと} ^{かん} ^が ^{ひと}
一日を振り返り、自分だけの事を考えて人
^{めい} ^わ ^く ^か ^{まい} ^に ^ち ^{はん} ^{せい}
に迷惑を掛けなかったか、と毎日を反省と
^{かん} ^{しゃ} ^こ ^こ ^ろ ^く ^{こと} ^い ^か ^{たい} ^{せつ} ^{せい} ^{ちよう} ^{よう}
感謝の心で暮らす事が如何に大切かを、生長
^{いえ} ^お ^し ^{しめ}
の家の教えは示しております。

例えば、日時計日記にその日に有った良い
^た ^と ^ひ ^ど ^{けい} ^に ^{つき} ^ひ ^あ ^よ
事、嬉しい事などを書くのも良いでしょう。

^{だい} ^{せい} ^し ^た ^に ^{ぐち} ^{まさ} ^は ^る ^{せん} ^{せい} ^{せい} ^{めい} ^{じつ} ^{そう} ^{だい}
大聖師谷口雅春先生は、『生命の実相』第
^{かん} ^{べい} ^じ ^{つぎ} ^か ^き ^{くだ}
38巻38頁に、次のようにお書き下さいます。

『では、自分の心のうちに「幸福な世界」を
^じ ^{ぶん} ^{こころ} ^{こうふく} ^せ ^{かい}
持つにはどうしたらよいであろうか。また
^{こう} ^{ふく} ^{じょう} ^{たい} ^{こた}
「幸福」とはいかなる状態であろうか。答えて
^{いわ} ^{ちょう} ^わ ^{こう} ^{ふく} ^{じょう} ^{たい} ^{おく} ^{まん} ^と ^み
曰く、調和が幸福な状態である、億万の富が
^{ちょう} ^わ ^{こう} ^{ふく} ^い
あるも調和がなければ幸福だとは言えない、
^じ ^{ぶん} ^{しゅう} ^い ^{こう} ^{ふく} ^せ ^{かい}
だからわれらがもし自分の周囲に幸福な世界
^も ^お ^も ^{ちょう} ^わ ^{こころ} ^も
を持つと思うならば調和した心を持たなけ
ればならないのである。』

したがって毎日を感謝と調和の心を持って、
^{けん} ^{きよ} ^{せん} ^{ばい} ^{ちゅう} ^い ^み ^み ^か ^た ^む ^{せい} ^{かつ} ^{こと}
謙虚に先輩の注意に耳を傾けた生活をする事
^{たい} ^{せつ} ^{おも} ^{からだ} ^{きた} ^{いの} ^{かん} ^{しゃ}
が大切だと思います。体を鍛え、祈りと感謝
^{わす} ^{こころ} ^{みが} ^{さい} ^{はい}
を忘れずに、心を磨いていきましょう。再拝

「中心帰一が運動の原点」

せいちょう いえ でんどうほんぶ り じちよう むらかみ まり え
 生長の家ブラジル伝道本部理事長 村上真理枝



がっしょう
 合掌、ありがとうございます。

せんじつ じどうしんたいしょうがいしゃ えんごきょうかい
 先日、児童身体障害者援護協会 (AACD)

せつりつ ねんき ねんしきてん さんか いただ き かい
 設立 60 年記念式典に参加させて頂いた機会に、

さいこう すば えんそう み
 最高に素晴らしいオーケストラの演奏を見せて

いただ ゆうめい
 頂きました。そのオーケストラは有名なブラ

ジルねんまえのピアニストであり、4 年前から指揮者しに

ちようせん
 も挑戦しておられる João Carlos Martins 氏に

よって指揮しされていましたが、72 名によって

こうせい じ かんはん
 構成されていたオーケストラの 1 時間半にわ

たるその演奏えんそうは、招待者全員しょうたいしゃぜんいんを魅了みりようしました。

し き しゃ ものすご えんそう
 指揮者の物凄いパワーとエネルギーは演奏

しゃぜんいん おお つつ えんそうしゃひとり がつき
 者全員を覆い包み、演奏者一人ひとりの楽器

かな おと み ごと し き しゃ し き
 から奏でられる音は見事に指揮者の指揮に

したが ぜんたい ちようわ えんそうしゃ
 従って全体と調和しており、そこには演奏者

し き しゃ も コーラス隊たいもなく、渾然こんぜん一体いったいとなっ

じっそうせ かい おも すば
 た実相世界を思わせる素晴らしさでした。そ

ちゆうしんきいつ せ かい
 こは中心帰一の世界でした。

かんだう つつ わたし とき じ た いったい
 感動に包まれた私は、その時、「自他一体」、

ちゆうしんきいつ おし と せいちょう いえ うんどう まった
 「中心帰一」の教えを説く生長の家の運動も全く

えんそう うん
 このオーケストラの演奏のようなもので、運

どう たずさ かんぶ しんと みな かみさま
 動に携わる幹部、信徒の皆さんが、神様より

そうさいせんせい とお あまくだ おし す なお う
 総裁先生を通して天下るみ教えを素直に受け

じっこう すば かみ くに じっそう
 て実行するところに素晴らしい神の国の実相

けんげん すば えんそう
 が顕現し、オーケストラの素晴らしい演奏を

かな こと おも
 奏でる事ができるのである、と思いました。

はち むし せ かい ちゆうしんきいつ
 蜂や虫の世界でも、やはりこの中心帰一の

げんり したが こうどう ゆえ おい みつ で
 原理に従って行動するが故に美味しい蜜が出

き あ せいぞん か のう
 来上がり、生存が可能となるのであります。

そうさい たにぐちまさのぶせんせい ちよしょ ひ び いの
 総裁・谷口雅宣先生のご著書『日々の祈り』

べいじ つぎ いの ことば あ
 の 70 頁に、次のお祈りの言葉が有ります。

かみ すべ そんざい つく めし たま
 「神は全ての存在の創り主にてあり給う。わ

かみ こ かみ つく たま
 れは神の子として、神の創り給いしすべての

そんざい ふところ なか いた
 存在の懐の中に抱かれているのである。だか

われ しんじつそんざい いったい
 ら我は、すべての真実存在と一体であり、す

しんじつそんざい われ いったい われ つつ
 べての真実存在は 我と一体にして、我を包

ひ こ やす あた
 み、庇護し、安らぎを与えてくれるのであ

しんじつそんざい かみ あらわ そうご
 る。真実存在は神の現れであるから、相互に

ふ わ ふ ちようわ たたか やらそ
 不和はなく、不調和はなく、戦いや争いはな

われ しんじつそんざい
 いのである。我とすべての真実存在も、だか

だいちょうわ なか かみ あい つつ
 ら大調和の中で神の愛に包まれているのであ

ちゆうりやく われ かみ いったい われ うちゆう
 る。…(中略)… 我は神と一体なり。我は宇宙

いったい かみ いったい
 と一体なり。すべては神と一体なり。すべて

われ いったい われ しんじつそんざい ち え あい
 は我と一体なり。我、真実存在の知恵と愛と

せいめい あた たま かみ む げんかんしゃ い ひようげん
 生命を与え給いし神に、無限感謝の意を表現

たてまつ
 し奉る。ありがとうございます。」

しんが いったい じ た いったい じ かく いっそうふか
 神我一体、自他一体の自覚をより一層深め、

われわれ ぜんしんと ぜんかんぶ そうさい たにぐち
 我々ブラジルの全信徒、全幹部が総裁・谷口

まさのぶせんせい きようかそうちよう むかいよし
 雅宣先生、ラテン・アメリカ教化総長・向芳

お せんせい し どう き かつ だいちょうわ
 夫先生のご指導に帰一して、大調和のうちに

うんどう てんかい かみさま みこころ あらわ
 運動を展開するところに神様の御心が現れ、

てんごくじょうど じつげん
 天国浄土が実現できるのであります。

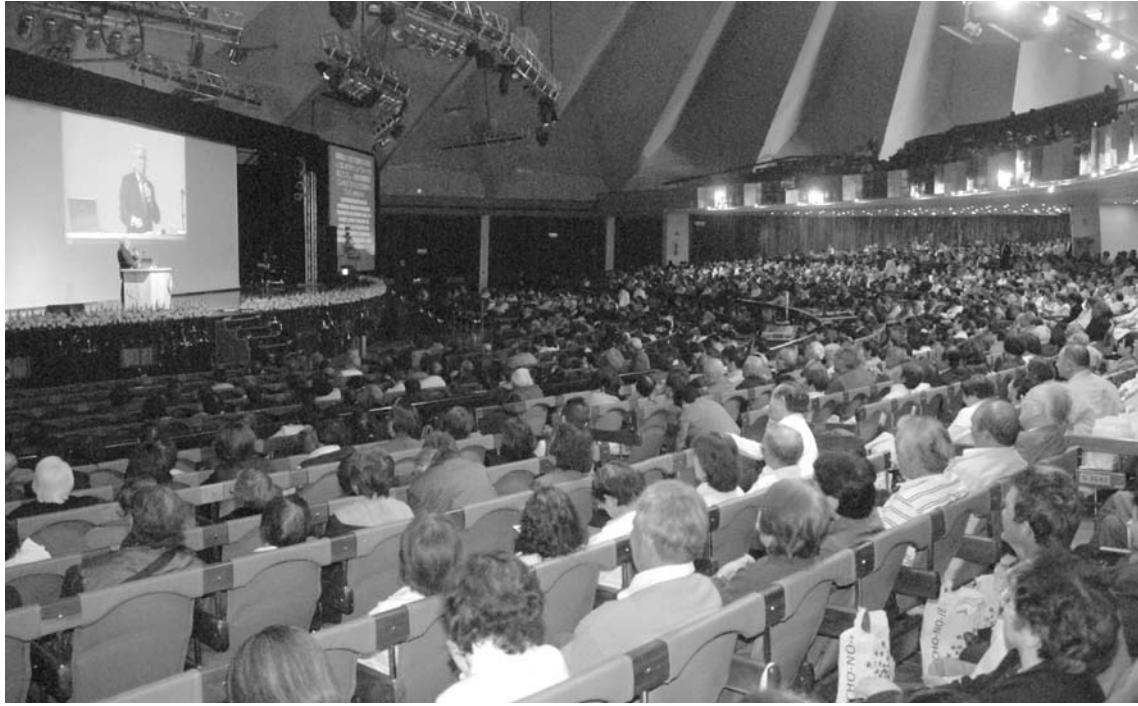
ちゆうしんきいつ せいしん のつと いちがん
 中心帰一の精神に則り、一丸となってブラ

うんどう たくま てんかいいた
 ジルにおいて運動を逞しく展開致しましょう。

みなさま よろ ねが いた さいはい
 皆様、宜しくお願い致します。 再拝

「ブラジル生長の家全国大会」

〈信仰による平和を目指す生長の家〉



「参加者で埋め尽くされた会場」

第24回ブラジル生長の家全国大会（日本語）が、去る7月18日（日）、聖市アネンビー国際会議場に於いて盛大に行なわれた。本会場では日本語で、別会場ではポルトガル語で行なわれた。参加者は実行委員を含めて合計2452名であった。今大会のスローガンは、「信仰による平和を目指す生長の家」と云うテーマで行なわれ、日本語の指導者は、ラ・米教化総長・向芳夫本部講師、生長の家ブラジル伝道本部理事長・村上真理枝本部講師、生長の家ブラジル相愛会副会長・小野寺フェルナンド本部講師補、生長の家ブラジル白鳩会副会長・山本ジュリア講師、石井かず恵講師、山崎賢一講師。ポ語の指導者は、向芳夫本部講師、村上真理枝本部

講師、宮崎映人本部講師、白鳩会々長・市川レオノール本部講師補、田丸秀雄ルイス講師、ARIOVALDO ADRIANO RIBEIRO 本部講師補が加わった。当日は多数のご来賓をお招きし、政界、日系団体や施設の代表者、報道関係者、生長の家海外光輪会員、生長の家功労者、生長の家前理事長、理事が参列された。会場は7時40分から、榎本忠男講師の先導により『聖經 甘露の法雨』を読誦された。開会式前、アトラクションが始まり、白鳩会有志の団体舞踊、よさこいソーランが披露され、雰囲気盛り上げた。今年は例年と違って青年達の司会により、プログラムが進行された。



「むかいほんぶこうし
向本部講師」



「むらかみほんぶこうし
村上本部講師」

ぜんこくたいかい たんどうしゃ
「全国大会の担当者」



「おののでらほんぶこうしほ
小野寺本部講師補」



「やまもとこうし
山本講師」

9時に開会が宣言され、当大会の指導講師が客席中央の通路より入場し、次いでブラジル国旗、サンパウロ州旗、生長の家聖旗、そして会場の両側の通路から各教化支部の相愛連合会長及び白鳩連合会長が生長の家相愛白鳩会旗と共に入場し、次いで日伯両国歌が斉唱され、その後、前園前光講師よって『大調和の神示』の朗読が行なわれた。開会の挨拶は生長の家ブラジル伝道本部副理事長の宮浦準治本部講師が来賓や参加者に感謝の言葉を述べた。

聖歌斉唱後、第一講話「人間生活の理想」と題して、小野寺フェルナンド本部講師補が、谷口雅春先生著書『生活と人間の再建』をテキストとして使用され、「神は人間が必要だから創造された。又、人間は自分を

表現するのに神様が必要である。ですから大宇宙は自分の内に宿っているので、心の眼で世界を見る時、大宇宙全体が見えて来ると話された。

RO-Cocoa | 教化支部の神谷クラリセ伝道員の体験発表後、生長の家セントラル第-2のコーラス隊の聖歌が発表された。

続いて「生きることの喜び」と題して、山本ジュリア講師が講話をされ、あなたが幸福になりたいと思ったら、幸福な表情になること、神の子の喜び、人間が神の子であるということほど嬉しいことはない」と強調された。聖歌「青年会の歌」斉唱後、「人間の運命は青少年の手に」と題して山崎賢一講師が熱意を持って講話を行なった。

昼食前に、アトラクションがあり、歌手



「団体賞 一位の
パラナ第1」

なかひら こ なつ うた ひろう
中平まり子さんが懐かしい歌を披露、そして
パラナ第1教化支部のコーラス隊の発表が
あった。

ちゅうしょくご みやざきえいと ほんぶ こうし ちよしょ ご ぼん
昼食後、宮崎映人本部講師著書、ポ語版
『愛をもって幸福を獲得しよう』の紹介があり、
その後、華麗な衣装で伝統的な沖縄踊り、華
やかな白鳩会有志の団体舞踊、迫力のある沖
縄太鼓が披露された。次いで少将・小原明氏
の力強い体験談の発表があった。

つづ いて “あなたの家庭を天国にするため
に、と題して、石井かず枝講師が講話を行い、
ごらく せいかつ おく え が お わす
極楽の生活を送るには笑顔を忘れないのが
ひ けつ ないよう
秘訣だとの内容であった。

たいけんたん あと か しゅ い とう
体験談の後、歌手の伊藤カーレンさんの
か よう さんか しゃ みな てびょうし
歌謡ショーがあり、参加者の皆さんも手拍子
いっしょ うた たの
で一緒に歌って楽しんだ。

せいか せいしやうご、 こうみやう くに だい むらかみ
聖歌斉唱後、“光明の国、と題して、村上
まり え ほんぶ こうし こうわ おこ わたし せい
真理枝本部講師が講話を行ない、「私たちは生
めい こ たいやう こ ひかり こ
命の子だ、太陽の子だ、光の子だ、いつまで
も消えることがない太陽の子だ」だから神様
から尊い生命を頂いて活かさないで生活する
のはもったいない事であると語られた。

こうわ し むかいよしお ほんぶ こうし
講話の締めくくりとして、向芳夫本部講師
ほんとう しゅうきやうてきすく い こんたいかい
が “本当の宗教的救いとは、と云う今大会



「団体賞 二位の
聖市第1」



「団体賞 三位の
パウリスタ第1」

のテーマに沿って講話をされ、外の世界は神
が内の世界を模写する。どんな境遇にいても
こころがま の にんげんかみ こ しんり
心構え一つで伸びられる。人間神の子の真理
が自分の内に感じた時、良くならざるを得な
いのです。生長の家を知って、御教えを知っ
て多くの方たちが救われるのですと語られた。

つづ いて参加団体賞の発表が行われ、参加者
すう きより か さん い だい
数と距離加算では、一位がパラナ第1、二
位が聖市第1教化支部、三位がパウリスタ
第1であった。向総長、村上理事長、大島
ふくり じちやう しょうきん こ ぎって
副理事長より、それぞれ賞金小切手とトロ
フィーが教化支部長に贈られた。

お しまいに『使命行進曲』を全員で斉唱し、
つぎ 次にバックサウンド・メロディーの流れる中、
たんとう こうし そうあいかい しるほかい かいちやう ちゆうお い いん
担当講師、相愛会・白鳩会々長、中央委員
だんじやう ふ かいじやう あと
が壇上からハンカチを振って会場を後にする
さんか しゃ みな み おく かんどう み たいかい
参加者の皆さんを見送り、感動に満ちた大会
しゅうりやう
が終了した。

「生長の家ブラジル青年全国大会」

〈真・善・美を生きよう!〉



「熱意あふれる若人で埋め尽くされた体育館」

生長の家ブラジル青年会全国大会が、
2010年7月25日、サンパウロ市、イビラ
プエラ体育館にて開催され、参加者は実行
委員を含め8,323名でした。

参加者の増加につながったのは、青年部
の弛み無い努力、日本語青年部の活動、白
鳩会、相愛会の御支援のお陰です。

今大会では新しい試みが幾つもあり、そ
の一つは「開会式に参加しよう!」との呼
びかけでした。参加者全員で大会のテーマ
曲に合わせて踊り、皆の心が一つになった。

更に、大会の開会式にはカポエイラ、ヒツ

プ・ホップ、サンバ、ロック、バレーなど
が発表された。

それだけに留まらず、大会初の、Twitter、
Orkutそして青年会公式サイトを通じてイ
ンターネットによる生中継が行なわれた。
当日、イビラプエラ体育館に出席すること
ができなかった人達は青年会の公式サイト
でビデオや写真を通して参加することがで
きた。

今大会の指導者は、Daniela Cristina Seghessi
講師で、第1講話「宇宙は真・善・美のあ
らわれである」、続いて、ラ・米教化総長・



しろはとかい じつこうい いん みなさま
「白鳩会・実行委員の皆様」



つうしんたんとうしゃ
「インターネット通信担当者」



ぶんべつ きょうりょく
「ゴミの分別に協力」



しゅわ つうやく
「手話による通訳」

むかいよしお ほんぶ こうし だい こうわ し ぜんかんきょう
向 芳夫本部講師の第2講話「自然環境は
しん ぜん び ひょうげん
真・善・美の表現である」、それぞれのテー
マでおこな
マで行われた。

ちゅうしょくご だい こうわ ほん
昼 食後の第3講話は Heitor Miyazaki 本
ぶ こうし すべ ひと しん ぜん び
部講師で「全ての人は 真・善・美である」、
だい こうわ でんどう ほんぶ りじ ちよう むらかみ まり え
第4講話は伝道本部理事長・村上真理枝
ほんぶ こうし しん ぜん び い
本部講師の「真・善・美を生きる」、そし
たいかいさいご だい こうわ
て大会最後の第5講話は Carlos Alberto da
ほんぶ こうし ほ か てい しん ぜん び
Silva 本部講師補の「家庭での真・善・美」
でした。

さんか しゃ きょうかし ぶ
参加者の PR-Wenceslau Braz 教化支部の
Paulus Tonholi Pereira de Campos 地方講師は
せんせいがた こうわ さんか しゃ こころ かみ こ
「先生方の講話で参加者は心から神の子で
あることの喜びを感じさせるものでありま
し。皆、夫々の神性を見、感じているよ
うな思いで熱心に聞き入っていました。私

の こ しょうがいぶつ ない いっけん
は乗り越えられない障害物など無い、一見
く なん おも む げん
苦難と思われるものは、わたしたちの無限
りょく はつき ため こと り かい
力を発揮する為にあるという事を理解させ
ていただきました。ブラジル ぜんこく せいねんたち
が、大会で伝えられた光の言葉によって、
たいかい つた ひかり ことば
心が生まれ変わり、「真・善・美」を体験し、
かんしゃ あい よろこ み きも それぞれ
感謝、愛、そして喜びに満ちた気持ちで、夫々
の町へ帰られたことと信じております。」と
かた
語った。

きょうか し ぶ
PE-RECIFE 教化支部の Francismar de
Mesquita Santos さん によりますと「Twitter
をつう たいかい さんか
を通じて大会に参加することができまし
た。たいかいぜんじつ せいねんかい
大会前日に青年会のサイト、Twitter と
Orkut のサイトからも放送されることを知
りました。たいかいとうじつ た すう ため
大会当日、多数のアクセスの為
かいせん こんざつ わたし さか かい べんきょう
回線が混雑しました。私は栄える会の勉強



たいかいたんとうこうし む
「大会担当講師一向かって
みぎ
右から：

むかいよしお ほんぶ こうし むらかみ
向 芳夫本部講師、村上
まり え ほんぶ こうし
真理枝本部講師、Heitor
Miyazaki ほんぶ こうし
本部講師、Carlos
Alberto da Silva ほんぶ こうし
本部講師
ほ
補、Daniela Cristina
こうし
Seghessi 講師」

サークルに^{さんか}参加しておりますので、Twitter
を通じて参加することに特別な思いがあり
ました。私にとって感動的だった場面は、
むらかみまり え ほんぶ こうし こうわ ぶ たい
村上真理枝本部講師が講話のため、舞台に
た したれたとき し かい つと じ しん むすめ
立たれた時、司会を勤めていたご自身の娘
さんと抱擁された瞬間、そして向教化総長
ほうやう しゆんかん むかいきょうかそうちやう
さんと抱擁された瞬間、そして向教化総長
への^{かんげい}歓迎の“ôla”（^{おうえん}応援の際に、^{かいじやう}会場にいる^{かんきやく}観客で
つく なみ
作る波）そして、^{わたしたち}私達の^{きやうかし ぶ}教化支部の^{まりあ}マリア・
ダルヴァネイデ講師が表彰状を授与した
とき ^{はな}時です。」と話された。

なお じ かい だいい かいせいちやう いえ
尚、次回（2011年）の第56回生長の家
でんどうほんぶ せいねんかいぜんこくたいかい せんでん
ブラジル伝道本部青年会全国大会の宣伝ビ
デオが公開され、すでに 2.100 枚以上の仮受
こうかい すで まいじやう かりじゆ
講券の予約がありました。すでに大成功とも
いえるでしょう。

こんたいかい はじ しゆわ つうやく おこな
今大会では初めて手話による通訳が行わ
すなわ ちやうかくしやうがいしや せいちやう いえ み おし
れた。即ち、聴覚障害者も生長の家の御教
えについて知ることができた。また、^{ことし}今年
あたらし ぎやうじ ひと だいい かい
の新しい行事の一つとして、第1回バンド・

コンクールが^{おこな}行われた。最終審査に残った
かく それぞれちゆうせん き せいちやう いえ
各バンドが夫々抽選で決められた生長の家
せいねんかい うた せいか はっぴやう しんさ
青年会の歌と聖歌を発表しました。審査
きてい しつ がつき ぎじゆつ
の規定にはバージョンの質、楽器の技術、
ぜんたい ちやうわ ぎじゆつ えんそう
全体の調和、ボーカル技術、演奏などが
ひやうか ぜんさんか しや かんどう あた
評価され、全参加者に感動を与えた。

ぜんこくせいねんかい わす かんきやうもん
全国青年会で忘れてはならない、環境問
だい さんか しや きやうりよく ぶんべつ
題に参加者の協力もあった。ゴミの分別が
おこ おおぜい かも
行なわれ、大勢のメンバーが、紙、プラスチッ
ク、ガラス、^{きんぞく}金属、そして生ゴミを全て分
べつ しゆうしゆう と く し ぜん わたし
別し、収集に取り組くんだ。自然は私たち
て まも たいかいかいさいちゆう
の手によって護られるのです。大会開催中
にはリサイクル材料を利用して作られたエ
コバッグも販売された。

せいねんかい し めい せいねん なか やど しんせい
青年会の使命は青年の中に宿る神性を
め ぎ
目覚めさせることであります。

ことし さくねん おとろえ あつ ふんいき つつ
今年も昨年に劣ない熱い雰囲気につつまれ、
たいいくかん しゆうじつわこうど ねつき み
体育館は終日若人の熱気に満たされた。

「 聖市の 『生長の家の日』 」



「開会の祈りを先導する宮裏準治本部講師」



「使命行進曲を斉唱する参加者」

去る8月12日(木)午前9時より、サンパウロ市議会議事堂内で『生長の家の日』を祝う記念式典が行なわれた。当日は、好天に恵まれ、来賓や関係者を含めて約145名が参列された。式典は、1997年制定されて以来、今年で14回目を迎え、同所内の専属放送局であるTV CÂMARA局より式典が収録された。

式典は、羽藤ジョージ市会議員が議長となつて進行され、午前9時に開会を宣言し、ブラジル国歌を斉唱し、次いで、ARNALDO ALVES DA SILVA 講師により「大調和の神示」が朗読された。

引き続き、元市会議員であり「生長の家の日」の定義者である田場ジョルジ講師、神谷牛太郎市議、生長の家ブラジル伝道本部理事・村上真理枝本部講師並びに議長の羽藤ジョージ市議が挨拶を述べた。

聖歌斉唱後、LUCIANO SUNDIN DO LAGO 光明実践委員の体験発表があつた。続いて、20分に亘つて、生長の家ブラジル

伝道本部理事・田丸秀雄ルイス講師が当日の記念講演を行った。田丸講師は「天国とは今此処に在るのであり、今此処が完全なる世界である事を知らなければならない。そしてそれを認識し、受け容れる事が大事です」と話された。その直後、歌手でもあるAGNALDO TIMOTEO 市会議員が「74年間の人生をおくって来て、私が知る事の出来なかった事がこの20分の短時間の中で習得することが出来ました」と飛び入りで激励の言葉を述べた。

生長の家ブラジル伝道本部副理事長・宮浦準治本部講師の先導によって、出席者一斉に「世界平和の祈り」を唱えた後、議長の羽藤ジョージ氏が閉会の挨拶を述べた。

最後に、聖歌「使命行進曲」が斉唱され、記念式典は終了した。

当日、式典の参加者全員に、お祝いとして、生長の家ラ・米教化総長・向芳夫本部講師著書の“AMOR E DEDICAÇÃO A UM IDEAL”がプレゼントされた。

「パラナ州イバイチー市第12回感謝見真会」

運動の起源を記念し、思い出を蘇らせる



「感謝の真心を込めて祈る参加者」



「向かって右から：リリアン・ノリマツ講師、ミルトン・ノリマツ講師」

第12回感謝見真会は去る7月4日、ブラジルに於ける運動の歴史に重要なページが綴られたイバイチー市の町で開催された。参加者は346名。

1941年に松田大二郎、松田巳代志兄弟が、この町に光明村（コロニア・デ・ルース）を設立し、自宅をブラジルの地に於ける最初の練成道場とした。

当日の担当講師はリリアン・スージ・バッフィ・ノリマツ講師とミルトン・カズオ・ノリマツ講師であった。先駆者への追悼儀式が西川ヒロシ講師によって行なわれた後、楽しい、笑いの練習についての説明、実習があった。

聖歌、体験談、SPプレジデnte・プルデnte教化支部のコーラス、そしてブラジル生長の家の歴史を語る芝居が発表された。

リリアン講師は、講話の中で、松田巳代志先生の献身的な人生について語り、

参加者全員が感動した。松田巳代志先生は、兄の大二郎先生が安心して巡講に出られるように、何年も家業を守られた。こうして運動の基盤を築くことができた。

『生命の真相』を説くために巡講を重ねるたびに、松田大二郎先生は若い人達を自分の家に連れて来ては、松田巳代志先生の下で、真理の勉強をさせたのであった。当時、巳代志先生は奥様と共に農業の仕事をしながら、生長の家の活動に励んでおられた。

パラナ州ロンドリーナ教化支部の青年会が準備した演劇によって、当時、松田兄弟の聖典『生命の真相』との出会いが再現された。ユーモアと感動にあふれた劇に、参加者は魅了された。

パラナ州ヴェンセスラウ・ブラス教化支部長のエジルソン・デ・ソウザ・メンデス講師は、30人の団体を率いて参加し、「参加者にとって、深く思い出に残る行事でした」と語った。

「パウリスタ第2教化支部創立52年」 「ジュンケイロポリス支部創立50年」



あらまききょうかし ぶちよう かいかい
「荒牧教化支部長による開会のあいさつ」



こうわ ちゆう むらかみまり え ほんぶ こうし
「講話中の村上真理枝本部講師」

パウリスタ第2教化支部創立52年、並びにジュンケイロポリス支部創立50年の記念祝賀講演会が去る8月1日、ジュンケイロポリス生長の家会館に於いて、伝道本部理事長・村上真理枝本部講師の指導のもとに開催された。

ジュンケイロポリス市はアセロラと葡萄の産地として知られ、毎年11月には華やかなお祭りが開かれる。

村上真理枝本部講師は講演会前日の7月31日午前に日本から帰伯し、午後の便でプレジデンテ・プルデンテ空港に到着した。荒牧教化支部長の御計らいによって、ジュンケイロポリス市長の専用車でドラセーナへ向かった。

多忙なスケジュールにも関わらず、疲れも見せずに31日夜、青年部の皆さんの申し

出に答えて、村上本部講師は予定にないツッピー・パウリスタ生長の家の会館で講話をおこなった。

翌日、8月1日午前8時20分、市長ご夫妻、市会議長、パウリスタ第1、パウリスタ第2、ソロカバナ第1の信徒の皆様、参加者数185名で、会場は満席の状態で開催が始まった。

菊池英雄相愛連合会長先導で、聖經『甘露の法雨』が読誦され、会場が清められた。

聖歌、岩田講師の『大調和の神示』に続いて荒牧教化支部長が開会の挨拶を行った。

9時20分、理事長村上真理枝本部講師が市会議長から賞状を授与された。その後、功労者の表彰が開始され、ジュンケイロポリス市長と村上本部講師より表彰者へ祝辞があった。

祝辞の中で村上本部講師は、創立以来



ひょうしょう こうろうしや
「表彰された功労者」

じ もとせいちやう いえ こうけん かたがた
地元生長の家のために貢献された方々へ
かんしゃ ことば の なか すで しょうてん
感謝の言葉を述べ、「中にはもう既に昇天さ
れている方もおられ、霊界から皆様に拍手
を送られているに違いない」と話した。

じ ぶん こうろうぶつこ しゃく ようさい むらかみ
10時30分より功労物故者供養祭が村上
ほんぶ こうし なら あらまききやうかし ぶちやう
本部講師、並びに荒牧教化支部長によって
おこな さんか しゃ まごころ こ しょうこう
行われた。参加者は真心を込めて焼香した。

ちゆうしょく じ もとにほんじん かいかん い どう
昼食はJ.E.C（地元日本人会館）へ移動。
し ぶ みなさま こころ
ジュンケイロポリス支部の皆様の心のこもつ
てりやうり さんかしゃ ぜんいん しちやう
た手料理を参加者全員でいただき、市長から
アセロラジュースが配られた。

ちゆうしょくご ごご ぎやうじ さの
昼食後、午後の行事が佐野アルベルト
こうし こうわ じ ぶんじ しん うんめい
講師の講話“自分自身で運命をつくる”の
さいかい さの こうし われわれ もと
テーマで再開された。佐野講師は「我々は求
めるより、与えた時にはじめて幸福になれる、
そして念ずると必ず実現するので、良いこと
だけを思うようにしよう」と話され、最後に
いんさつ ゆる いのり みなさま て わた
印刷した“許しの祈り”を皆様に手渡した。

ひらの すみ こ でんどういん たいけんだん つづ むらかみ
平野寿美子伝道員の体験談に続き、村上
ほんぶ こうし たにぐちまさはるだいせいし
本部講師の“谷口雅春大聖師をドラセーナ
むか だい たにぐちまさはるだいせいし
にお迎えして”と題して谷口雅春大聖師の

ご じゆんこう ようす はな なか いま とうじ
御巡講の様子を話された。中には今も当時
かんどう おぼ かた かいじやう にん
の感動を覚えておられる方が会場に10人
ほどおられた。

たにぐちまさはるせんせい たにぐちてるこ せんせい ご じゆんこう
谷口雅春先生と谷口輝子先生の御巡講の
さい とうじ し ちやう
更に、当時パカエンブーの市長をされてい
かた がん わずら ゆめ なか あ にほんじん
た方が癌を患い、夢の中で或る日本人があ
らわれ、懸命に“土曜日、土曜日”と繰り返
かえ い い み めざ
返し言われ、意味がわからないまま目覚め
た。丁度その頃御巡錫でパウリスタ地方を
まわ たにぐちまさはるだいせいし とくべつこうわ
回られていた谷口雅春大聖師の特別講話が
その土曜日に開催された。

ぐせんこうわ さんか し ちやう たにぐちまさはる
偶然講話に参加された市長は、谷口雅春
せんせい ゆめ で こ に ほんじん
先生が夢に出て来られた日本人だというこ
とが判明し、大変驚かれた。

そのま しょうわ き のち がん こくふく
のまま講話を聴き、後に癌を克服した
ことがわかった。そして「谷口雅春氏のよ
うな方が世の中に何人かおられたら、世界
は平和になる」と言われた。

しょうわ なか むらかみほんぶ こうし なんさい
講話の中で、村上本部講師は「何歳になっ
てもどこにいても頒布する機会をつくり、
せいちやう いえ おし みなさま つた こと
生長の家のみ教えを皆様にお伝えする事が、
たにぐちまさはるせんせい おんがえ
谷口雅春先生へのご恩返しになる」と話し
た。

せいちやう いえ おし すく
生長の家のみ教えによって救われたとい
う方が会場に複数おられた。

その後、むらかみほんぶ こうし けつご にんげん
村上本部講師による結語“人間
かみ こ む げんりよく つづ へいかい いの
神の子無限力”に続いて、閉会の祈り、そ
して全員で元気よく、『使命行進曲』を斉唱
ぜんいん げんき し めいこうしんきやく せいしやう
した。参加者は感動を胸に、むらかみほんぶ こうし
さんか しゃ かんどう むね むらかみほんぶ こうし
と別れを惜しみながら解散した。

「地方講師勉強会」 インターネット通信



「真剣に勉強会に取り組む参加者」

去る8月1日伝道本部別館C室に於いて、インターネット通信による地方講師勉強会が高橋信次本部講師と石井ルイス本部講師補の指導のもとで行なわれた。伝道本部別館のC室で61名の地方講師が参加し、地方ではインターネット通信によって地元の年配地方講師も参加出来たことがメリットであった。横山ジョン講師の聖經読誦ではじまり、9時より開会式となった。

まず高橋信次本部講師の開会の祈り、続いて石井ルイス本部講師補の開会の挨拶があった。それから体験談となり、「Móduloの勉強について」のテーマで勉強会を指導している橋詰敏雄講師は、Móduloの

勉強会の素晴らしさを語った。

第一講話には高橋信次本部講師の「七つの光明宣言の解説」及び「七つの光明宣言」の第一条と第二条を説いた。現象は横の真理で、心の法則によって現れている世界である。現在意識の働きは5%で、潜在意識の働きは95%であることを説き、「生命の実相」の自性円満を自覚すれば、大生命の神癒の力が働いて「メタフィジカルヒーリング」神癒となる。生長の家は病氣治療のみが目的ではなく自分自身が神であることを自覚して、自身を礼拝し肉体は亡びても生命は生き通しであると信ずること。死後にも個人の業績は残る。現象界ありと見て転倒妄想して、病氣や悪はないの



「講話中の石井本部講師補」



にあると思^{おも}って苦^{くろ}勞^うしている人^{じん}類^{るい}を救^{すく}うに
は、人^{にん}間^{げん}の生^{せい}命^{めい}の本^{ほん}質^{しつ}を信^{しん}じて愛^{あい}行^{ぎやう}を実^{じつ}踐^{せん}
することであると指^し導^{どう}された。

次^{つぎ}は体^{たい}験^{けん}談^{だん}で、宮^{みや}原^{はら}夏^{なつ}恵^え講^{こう}師^しは歩^{ある}かな
い子^この親^{おや}が、親^{おや}に感^{かん}謝^{しゃ}、先^{せん}祖^ぞ供^{きやう}養^{やう}をする
こ^こ事^じによ^よって、そ^その子^こ供^{ども}が歩^{ある}き始^{はじ}めた体^{たい}験^{けん}
か^かた語^ごった。

つづ だいい こうわ いしい ほんぶ
続^{つづ}いて第^{だい}二^に講^{こう}話^わでは、石^い井^しル^いス本^{ほん}部^ぶ
こうし ほん こうしかい しゅつせき ほうこくしょ しけん
講^{こう}師^し補^ほは「講^{こう}師^し会^{かい}へ^への出^{しゅつ}席^{せき}／報^{ほう}告^{こく}書^{しょ}／試^し験^{けん}
しょうかく しけん ほんぶ はけん こうし じやうけん こうりゆう
／昇^{しょう}格^{かく}試^し験^{けん}／本^{ほん}部^ぶ派^{はい}遣^{せん}講^{こう}師^しの条^{じょう}件^{けん}／交^{こう}流^{りゅう}
こうし じやうけん など こうし ぜ ひ し
講^{こう}師^しの条^{じょう}件^{けん}」等^{など}、講^{こう}師^しとし^{して}是^ぜ非^ひとも知^しる
じゆうようせい してき しゆうきやう
べき重^{じゆう}要^{よう}性^{せい}を指^{して}摘^きした。「宗^{しゆう}教^{きやう}とい^いうもの^{もの}は、
けつ びやうきなお こじん はんえい りやう
決^{けつ}して病^{びやう}氣^{きな}治^おしや個^こ人^{じん}の繁^{はん}榮^{えい}のた^ために利^り用^{よう}
せるべきものではありませ^{せん}。本^{ほん}当^{とう}のおか
げがあらわれるのは、真^ま心^{ごころ}の信^{しん}仰^{こう}と報^{ほう}恩^{おん}感^{かん}
しゃ こころ あらわ とき ふぞく あらわ
謝^{しゃ}の心^{こころ}が現^{あら}れた時^{とき}、そ^その付^ふ属^{ぞく}とし^{して}現^{あら}れる
もの^{もの}です」と指^し導^{どう}した。

ちゆうしょく じかん ご ご しつぎおとう
昼^{ちゆう}食^{しょく}の時^{じかん}間^{かん}になり、午^ご後^ごから質^{しつ}疑^ぎ応^{おう}答^{たう}
じかん きゆうけい じかん ちほう
の時^{じかん}間^{かん}にあわ^あせて、休^{きゆう}憩^{けい}時^{じかん}間^{かん}には地^ち方^{ほう}か^か
の質^{しつ}問^{もん}がメ^めールで送^{おく}ら^られて来^きた。昼^{ちゆう}食^{しょく}後^ごか
の質^{しつ}問^{もん}がメ^めールで送^{おく}ら^られて来^きた。昼^{ちゆう}食^{しょく}後^ごか
らの第^{だい}三^{さん}講^{こう}話^わは両^{りやう}講^{こう}師^しの解^{かい}答^{たう}によ^よって質^{しつ}疑^ぎ
おうとう おこな
応^{おう}答^{たう}が行^{おこな}われた。

つづ だいい こうわ いしい ほんぶ こうし ほん
続^{つづ}いて第^{だい}四^し講^{こう}話^わで石^い井^しル^いス本^{ほん}部^ぶ講^{こう}師^し補^ほ
は、「七^{なな}つ^{なな}の光^{こう}明^{めい}宣^{せん}言^{げん}」第^{だい}三^{さん}条^{じょう}にあ^ある「吾^{われ}等^ら
じんるい むげんせいちやう まことのみち あゆ
は人^{じん}類^{るい}が無^む限^{げん}生^{せい}長^{ちやう}の真^ま道^{みち}を歩^{あゆ}まんがた^ため
せいめい そうか ほうそく けんきゆうはつびやうす
に生^{せい}命^{めい}の創^{そう}化^かの法^{ほう}則^{そく}を研^{けん}究^{きゆう}発^{はつ}表^{びやう}す」とい^いう
と そんしたにぐちまさはるせんせい わたし
こ^こを説^せきな^なが^がら尊^{そん}師^し谷^{たに}口^{くち}雅^{みや}春^{はる}先^{せん}生^{せい}は、「私^{わたし}
きやうそ くだ しゆう
を教^{きやう}祖^そあ^あつ^つか^かい^いにし^{して}下^{くだ}さ^さる誌^し友^{ゆう}もあ^あるが、
わたしは『生^{せい}長^{ちやう}の家^{いえ}』の教^{きやう}祖^そではな^{ない}い…
ひとり きゆうどうしや か
一^{ひとり}人^{ひと}の求^{きゆう}道^{どう}者^{しや}に^にす^すぎ^ぎな^ない」と書^かかれて^{いて}る
こ^こを指^{して}摘^きした。

さいご けつご たんとう たかはししん じ ほんぶ
最^{さい}後^ごの結^{けつ}語^ごとな^なり、担^{たん}当^{とう}の高^{たか}橋^{はし}信^{しん}次^じ本^{ほん}部^ぶ
こうし なな こうみやうせんげん だいいんじやう と
講^{こう}師^しは「七^{なな}つ^{なな}の光^{こう}明^{めい}宣^{せん}言^{げん}」第^{だい}四^し条^{じょう}を説^せかれ、
かみ ぜんのお ぜんち むげん ち え
神^{かみ}は全^{ぜん}能^{のう}で^であり、全^{ぜん}知^ちで^であり、無^む限^{げん}の智^ち慧^え
で^であり、無^む限^{げん}の愛^{あい}で^であり、悪^{わる}いもの^{もの}は本^{ほん}来^{らい}
ない全^{ぜん}て善^{すべ}し、悪^{わる}いもの^{もの}は無^ないと宣^{せん}言^{げん}され
て^{いて}る指^し導^{どう}され、イ^いン^んタ^たー^あネ^えツ^つ通^{つう}信^{しん}に
あたら こころ い ぎ べんきやうかい しゆうりやう
よ^よる新^{あたら}しい試^{こころ}み^いの意^ぎ義^ぎあ^ある勉^{べん}強^{きやう}会^{かい}を^{しゆう}終^{しゆう}了^{りやう}し
た。

とうじつせつぞく かず かしよ
当^{とう}日^{じつ}接^{せつ}続^{ぞく}され^たリ^ンク^の数^は22カ所^で
じゆうこうしやすう めい せいめい
受^{じゆう}講^{こう}者^{しや}数^は252名^で、テ^{めい}キ^{せい}ス^{せい}ト^{めい}は『生^{せい}命^{めい}
じっそう だいいっかん ぐどう でんどう
実^{じっ}相^{そう}』第^{だい}一^{いつ}巻^{かん}、「求^ぐ道^{どう}と伝^{でん}道^{どう}のた^ために」が
しやう
使^{しやう}用^{りやう}され^た。

れんさい しんり べんきょう だい かい
連載・真理の勉強（第29回）

いちばん たいせつ
『一番大切なもの』

たにくちせいちよせんせいちよ
谷口清超先生著



ふ し ふ め つ
「不死不滅」

わたし むかし ひろしまし みなみたけや ちょう い
私は昔、広島市の南竹屋町と言うところ
で生まれたらしい。その後四歳ごろまでし
か居なかったが、今でもはっきり覚えてい
る光景である。その一つは、どこかの大き
な通りを通っていたとき、向こうから来た
自動車（男性）が、やはり向こうから来た大人の人
の足を踏いた。男の人の下駄が割れ
て、黒足袋の足から、血が吹き出していた。
彼はそれでも逃げて行った車を追いかける
ような恰好をして、片足を引きずって大声
で叫んでいた。

わたし み おそ
私はそれを見て、恐ろしくてたまらず、
後はどうなったかもわからないまま、立ち
去ったことがある。その辺には大きな病院
も在ったし、人通りも多かったから、この
男の人（男性）も助けられたと思うが、三歳か四歳
の私には、ただ恐ろしいと言う思いだけが
残ったのである。

おとな て ても あし ゆびいっぽん
大人にとって手でも足でも、指一本でも、
傷つくとも不便なものだ。だから大切
にして、病気や怪我をしないようにしなけ
ればならない。今はあのことより、ずっと

じ どうしゃ じ てんしゃ ふ う
自動車や自転車が増えたから、生まれなが
ら不自由なからだの人は、さぞ困るだろう。
言うまでもなく肉体は私たちの使う一番
大切な道具であり、家であり、乗り物でも
ある。しかしその主人公は、魂と言われる
目に見えない霊であり、永遠に生き通して
いるものだと言うのが、正しい宗教的な考
えである。と言うのは、もし肉体が死ぬと、
もうその人が居なくなり、灰や骨だけだと
言うのなら、“何のために生きて来たのか”、
わからないからである。

またその魂が、しばらくは生きていても、
千年か、万年かすると、死んで居なくなる
のでも、やはりつまらない。例えばお金で
も、しばらくは財布にあるが、夕方になると、
もう消えてなくなると言うのでは、つまら
ない、値打ちがないようなものであろう。

だから魂や霊はいつまでも生き通してい
て、“永遠不滅”だと信ずるのが当たり前だ。
しかも“不滅”となると、完全でなくては
ならない。完全でないものは、やがて必ず
壊れてしまうからである。

だから肉体という道具やその他の「物づ
くり」はとても大切で、これが物質世界（こ

の世)での「基本的な仕事」と言えるのだ。ここで基本的と言うのは、建物でも基礎造りが出来ていないと建てられない、と言うような意味である。

もの「物づくり」

ところが最近、このような「物づくり」よりも「情報」や「株価」や「金利」などが重視される傾向が強くなってきたようだ。確かにこれらも大切であるが、それだけのソフトでは、実体がない。それが何かに物質化されて来て、建設されたり、保存されたりして、ハード化される。例えばスペースシャトルが機体の故障によって、不幸にも空中分解して、墜落した。このときは機体が墜落する前に、多くの情報で、異常が確認されていたのだ。

しかし情報だけでは、空中分解の事実までは確認できないだろう。「機体の分解」の事実が最後の決め手になって、その悲劇的結果が全世界に衝撃を与えることになったのである。この場合は、「物づくり」ではなく、「物こわし」だが、こうした“物質化”が決定的要素となるのである。だが「コトバの力」は偉大であるから、それがあたら

も偵察機のように、事前に活躍する。前述のシャトルの事故でも、すでに9年前からこんな報告があったと伝えられている。平成15年2月6日の『毎日新聞』によると、『ジョンソン宇宙センター（米テキサス州）斗ヶ沢秀俊】米国の研究者が94年に「スペースシャトル打ち上げの際、何らかの破片が機体の翼に当たって多数の耐熱タイルを損傷している。」との報告書を発表していたことが明らかになった。AP通信が4日報じた。米航空宇宙局（NASA）は指摘を受けて改善に取り組んでいたという。9年前に判明していたシャトルの欠陥が、その後も十分に改善されず、コロンビアの空中分解事故につながった可能性が出てきた。

報告書をまとめたのはスタンフォード大ポール・フィッチベック教授（現カーネギメロン大教授）らのグループ。81年から92年までの50回のシャトル飛行を分析し、飛行後に長さ1インチ（約3センチ）以上の損傷が見つかった耐熱タイルの数を調べた。約2万枚のうち、1回の飛行で最少3枚、最多で150枚のタイルが損傷していた。平均では25枚だった。』

- (1) 光景 cena (2) 轆いた atropelou , passou por cima (3) 恰好 aparentar, parecer
- (4) 恐ろしい horrível , pavorosa (5) 不便 inconveniente, incômodo
- (6) 不自由な体 deficiência física (7) 道具 instrumento (8) 主人公 protagonista
- (9) 宗教的な考え ver a situação do ponto de vista religioso (10) 値打ち valor, valia

- (11) 永遠不滅 えいえんふ めつ eterno e imortal (12) 物質世界 ぶつしつせ かい o mundo físico
- (13) 基本的 きほん てき básico , fundamental (14) 基礎作り き そ づく construção do alicerce
- (15) 情報 じょうほう informações (16) 株価 かぶか valor das ações (17) 金利 きんり juros
- (18) 重視 じゅうし dar importância (19) 傾向 けいこう tendência, propensão
- (20) 実体 じつたい substância , essência
- (21) 物質化 ぶつしつか materialização (22) 機体 き たい corpo (do avião)
- (23) 空中分解 くうちゅうぶんかい desintegrar-se no espaço (24) 墜落 ついらく queda (25) 異常 いじょう anormalidade
- (26) 悲劇的結果 ひ げきてきけつ um resultado trágico (27) 衝撃 しょうげき choque, impacto
- (28) 決定的要素 けつていてきようそ um fator decisivo, determinante
- (29) 偵察機 ていさつき avião de reconhecimento , de inspeção
- (30) 前述 ぜんじゆつ como foi mencionado (31) 破片 は へん fragmento , estilhaço
- (32) 耐熱タイル たいねつ ladrilho resistente ao calor (33) 損傷 そんしょう estrago, dano
- (34) 指摘 し てき apontar a causa , o erro (35) 改善 かいぜん melhoria
- (36) 欠陥 けつかん defeito , deficiência (37) 分析 ぶんせき analisar (38) 最少 さいしょう mínimo
- (39) 最多 さいた máximo

[練成会のご案内]

第 44 回神性開発

【 寿 練 成 会 】

期日： 2010 年 12 月 3 ~ 5 日

場所： 生長の家 南米練成道場

楽しい寿 練成会に若い方も一緒に参加しましょう！

70 歳以上の方は無料です。

担当： 小野寺賢慈本部講師補

城代洋 講師

森本敦子 講師

中村晃児 講師

特別指導講師：

ラ・米教化総長・ 向芳夫本部講師

伝道本部理事長・ 村上真理枝本部講師

06/08/2010 ~ 13/09/2010

圓環ご協力者ご芳名

(単位・レアイス)

聖市 4	松浦昭子様	30,00	聖市 1	瀬尾愛子様	50,00
聖市 1	ボスケ・ダ・サウデ白鳩会様	50,00	々	坂本君枝様	50,00
聖市 2	重松富子様	20,00	パラナ 3	パラナヴァイ白鳩会様	300,00
セントラル 1	教化支部様	300,00	アララクアラ 1	パルメイラ	
聖北 1	浜崎徳子様	70,00		ド・オエステ白鳩会様	50,00
聖市 3	レプレーザ白鳩会様	50,00	々	ジャレス相・白会様	100,00
パラナ 1	古沢鉄夫様	20,00	パウリスタ 1	教化支部様	200,00
聖市 1	宮原夏恵様	50,00	パウリスタ 2	教化支部様	600,00

生長の家 塩椎の会俳壇

囀りの湧き立大樹春の風 立川 ゆう
 天高し猫もじゃれ合ふ屋根の上
 看護婦のやさしき言葉暖かし
 原爆症新たに祭祀四千柱 坂本 君枝
 餅草の緑色よく茹だりたる
 春の猫屋根裏今日は静かなり
 孕み猫殖えて困ると捨てられし 荒巻 重乃
 俄雨過ぎれば湯気立ち土ぬくし
 練成の蓬摘みした友は逝き
 七夕や我も長寿の願ひこめ 村松 里乃
 狭き庭背景を飾るポインチア
 炭坑節おどりの先頭春の旅
 師の言葉心にひびき暖かし 城 良子
 春立つやもうすぐぼうや歩き出す
 嫁ぎゆく娘とひとときの蓬つみ
 父の日は家族で楽しスキヤキ会 矢島みどり
 衿巻にマリーヤカザッコ着ぶくれて
 ホームレス影も見えずに寒きびし
 父の日や墓前の供花に蝶の来て
 蜂鳥の花に嘴立て宙に舞ふ
 草餅の搗きたて匂う蓬の香
 しほしほと戻る恋猫振られしや 香山 和栄
 臼で搗き焼いて香ばし蓬餅
 恋知りし夜な夜な隣のペルシヤ猫

春彼岸黄粉まぶして蓬餅 立石 松男
 春立つや牧の若草下萌す
 暖き日は夢ふくらまし釣堀りに
 曳く秋にメトロの人情あたたかき 湯田南山子
 蜂鳥の向きかえる時七彩に
 恋の猫満身創痕の朝帰り
 玉音に慟哭の国民終戦日 析沢 秋穂
 肌を刺すアンデス風の寒波襲ひ
 大寒波におののき故郷は熱中症

◆ 医者いしやの診断しんだんも靈感れいかんとか直覚ちよくかくとかによつて正しく導みちびかれねばならない。医者いしやこそ最も多く祈いのらねばならない人達ひとたちである。

◆ 『生長の家せいちやういえ』では、大体薬だいたいやくすりを用いもちない。『生命の法則せいめいほうそく』に順したがうとき病氣びやうきにならないのが普通ふつうであるからである。しかし若もし『生命の法則せいめいほうそく』を破やぶつて病氣びやうきになつたときはどうするか。祈いのりを深ふかめて行くことによつて、どう云いう療法りようほうをとるべきかに就ついて、大生命だいせいめいからおはからいがあるのである。

(智慧の言葉ちえことば)

せいちょう いえ ぜんこく たいかい も よう
「ブラジル生長の家全国大会の様様」



だんたいぶ よう ひろう しろはとかいゆうし みな
「団体舞踊を披露された白鳩会有志の皆さん」



にん だいがっしょう
「パラナ-1 80人の大合唱」

みな
「セントラル-2のコーラスの皆さん」



はくりょく たいこ
「迫力ある太鼓のアトラクション」

せいねんかいぜんこくたいかい
「青年会全国大会のアトラクション」

「全国大会（日語）の司会者」



「青年全国大会（ポ）の司会者」

